



時宗布教伝道研究所研究員小田義宗

今回はお釈迦様が涅槃（お亡くなりなること）に入られた地、インド四大仏跡の最後の紹介になりました『クシナガラ』のお話です。

まずこの地で目を引くのは、お釈迦様が涅槃に入られた場所に建つといわれる涅槃堂です。このお堂には、お釈迦様が最後に沐浴をされたというヒランニヤバテイー川の川底から発見された7メートル程の石像がお祀りされており、そのお姿は右手を枕にされた「頭北面西」の言葉通りの穏



やかなものです。ちなみにこの「頭北」が、日本で亡くなった方を北枕にする由縁でもあります。またこの涅槃のお姿には国や地方で若干の相違がありますが、それを楽しめるのも仏跡巡礼の醍醐味と言え

るでしょう。

そしてこのエリアには涅槃堂以外にも、それに寄り添う様に復元されたドーム型のストウワー（お墓）があり、そこには仏舎利（お釈迦様のお骨）が納められています。また同じように、近くには従者であった阿難尊者のストウワーも、お釈迦様に付き添うかのようにたたずんでいます。

さてこれらの場所から少し移動すると、お釈迦様最後の説法地にたどり着きます。そこには成道の地・ブツダガヤから招来した降魔成道仏が安置されている僧院跡があり、その近隣にはお釈迦様の茶毘塚や先ほど紹介した涅槃像が発見されたヒランニヤバテイー川が、塚の裏手で現在

も静かに流れています。

次にこのクシナガラから車で30分程の場所には、お釈迦様に最後の食事を差し上げた鍛冶屋チユンダの村跡があります。ここは現在、高速道路沿いの小さな町の中にある丘をフェンスで囲っただけの場所です、おそらく普通の仏跡ツアーでは見つけることはできません。またここに車で向かう途中には、お釈迦様が最後の食事で激しい下痢におそわれ、その喉の乾きを癒すために沐浴されたといわれるクツクダ川も今なお流れています。

このようにクシナガラは、これまでの仏跡地に比べると少し地味な印象を受けますが、私たちがご先祖様のお墓に抱く感情と同じような、他の場

所以上にお釈迦様がこの世に実在されたことを強く感じ、そして感謝できる場所でした。

◆ インドの鉄道事情

今回の旅の中で私たちは鉄道を利用しませんでした。が、そもそも時間の限られた旅行をするにあたって、インドの鉄道を利用することはあまりお勧めできません。と言うのも、とにかく時間の正確性が皆無で、私たちと一緒にいたガイドさんが、過去に電車が時刻通りに来たので驚いていると、それは前日の同時刻に来る予定の電車だったという話もあるほどです。その理由の一つに、インドの踏切が手動開閉式であることがあげられます。常時踏切にいる開閉



係員が、電車が来る数十分前に一度人力で踏切を開めた後、待っている車の運転手とチップの交渉を始め、成立すると閉めた遮断機を少し開けて、その車を通すのです。私もそれを目の当たりにしましたが、これでは電車も安心して走ることができませんよね。